

あたらしい時代の教育

～6.20 泰山先生のお話まとめ～

変わりゆく社会の中で求められる新たな教育

1. 学校はどのような力を育成すべきか**求められるスキルの変化**

2015年には「真面目に誠実に言われたことをやる」能力が重視されていましたが、2050年には「問題発見」「予測」「新しいものの提案」「決定」「情報収集」といった力が不可欠となるとされています。

2050年。遠い未来ですか？

いえ、25年前は、ミレニアム！と騒いでいたあの頃です。

25年後はすぐそこです。

これは、今まさに中学校で学んでいる

子どもたちが

社会の中心を担うようになる時期と

重なります。(15歳が40歳になるころです)

56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性※	1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル：口頭	1.08
基礎スキル※	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
：	：	：	：

※基礎スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

(出所) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究Ⅱ」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum「The future of jobs report 2020」、Hasan Bakhshi et al.,「The future of skills: Employment in 2030」等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

働き方の変化

現在の新入社員の

約半数が10年以内に転職を考慮しており、

キャリアステージに合わせて仕事を変えることが当たり前になっています。

これは、生涯にわたって学び続ける必要性を意味します。

学び続ける社会

日本の大人は、勤務先以外での自己成長のための学習を

ほとんどしていない割合がアジアで最も高い(46.3%)というデータがあります。

子どもたちには、自ら学び続ける「学びに向かう力」を育むことが求められています。

学習の進め方を委ねるためのステップ:**「学習の手引き」の提示**

教師が課題（今日のゴール）、ルーブリック（評価基準）、学習過程（どう学べばいいか）を事前に全て示す。（自分で学べる子はどんどん進め、何をしたいかわからない子は先生に確認しに来る、という形に）

評価基準には、全員に到達してほしい最低限の基準（A基準）と、クラスで数人が達成できれば十分な高い基準（S基準）を設定する。

2. 「学びに向かう」とは「先生がいなくても、自分で学べる子になること」

=以下のプロセスを自分で回せるようになることを指します。

課題の設定

自分が何を学ぶべきかを自分で決められるか。

情報収集

必要な情報を適切に自分の力で集められるか。

整理分析

集めた情報を整理し、分析できるか。

まとめ表現

学んだことをまとめ、表現できるか。

出典) 高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編 (2009年7月)

これまでの授業は教員が課題を設定し、情報を提供し、整理分析させ、数人が発表し、それを先生がまとめる、というように、

先生が子どもの代わりに学んであげる形が多かった。

それでは先生がいなくなった時に子どもたちは学べなくなることが多い。

授業を通してこれらの力を育むことが求められている。

教師は教えるプロではなく学ぶプロへ**子どもたちが自分で学ぶために**

具体的な「学び方」を教師も生徒も知っている必要があります。

教科書の読み方

先生が解説するだけでなく、自分で線を引いたり囲んだり、資料と本文のつながりを考えたりといった読み方を指導。

情報収集の方法

教科書だけでなく、人に聞く、体験する、実験する、インターネットから収集するなど、多様な情報収集の方法を教え、実践させる。

整理分析の方法（思考ツール）

情報を「分ける」「比べる」「並び替える」といった整理の仕方を教えるための道具が思考ツール（シンキングツール）。

段階的な委ね

最初から全てを子どもに任せるのではなく、例えば「課題設定は先生が行うが、情報収集は自分で教科書から行う」といったように、少しずつ学習の主導権を子どもに渡していくことが効果的です。

それでも、「一時的な落ち込み」はやってくる

新しい学習方法に移行する際、一時的に知識の定着が落ちる時期が来る可能性があります。しかし、そこで諦めずに信じて継続することが、その後の探究的・自立的な学びの向上につながります。